俳句部門

	「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
最優秀賞	みどりごに ちさきつめあり 春の風	山田 由美子
優秀賞	青い空 きみと歩いた 夏の浜	りぼんちゃん
優秀賞	孫生れ 呱呱の声きく 春の朝	山口 のり子
優秀賞	夏祭り 君の背中を さがしてる	宅野 友菜
佳作	炎天下 二人で笑う 帰り道	Nさん
佳作	花火より きれいに咲いた その笑顔	岩田 芹奈
佳作	ソーダ水 君とシェアする 恋の味	三浦 寧音
佳作	打ち上がる 花火とともに つないだ手	いちご
佳作	盆休み 祖母と一緒に 墓参り	長谷川 瑠華
	白桃が 並ぶ姿は 甘美だな	バン
	焼き芋の 香りに惹かれ 足が向く	バン
	恋人の 浴衣姿に 一目惚れ	りぼんちゃん
	夏休み 学校なくて しあわせだ	るみれ
	七夕の 願いは一つ 彼氏くれ	るみれ
	寒い朝 大量発生 こたつむり	恵
	あつい日に かさの音響く ふうりん	恵
	初秋に ふたり眺めた 流れ星	いちご
	青い空 それが続く 幸福よ	川浦 千佳
	今を生き そして命は 続いてる	川浦 千佳
	夏の朝 友といっしょに 学校へ	ゆ
	せみの声 うるさいなあと わらいあう	ゆ
	朗らかに 家族と笑う 初夏の庭	村人A
	画用紙に にじむ色水 鮮やかに	村人A
	大晦日 カウコンにでる 推しおがむ	まりりん
	クリスマス みんなわいわい 楽しい日	まりりん

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
耳澄まし 子どもの声と 蝉時雨	空花
雨やんで 気分はらした 二重虹	空花
友達と 晴れた青空 散歩する	マカロン
友達 遊びに行くよ 青春だ	マカロン
夜ごはん からあげ食べて しあわせだ	からあげ
休みの日 解放された 自由の身	からあげ
空高く 見上げる花火 横に友	ジャスタウェイ
かき氷 削る音響く 午後三時	ジャスタウェイ
見つけたよ ふわふわ咲いた たんぽぽを	なくなく子
節分で 幸せを呼ぶ ふくはうち	なくなく子
つなぐ手の 先にいつもの 帰り道	岩
陽だまりに 猫が丸まる 幸せかな	岩
蝉と鳴く 君と私の 勘高い声	由希
炬燵猫 見るだけのびる 健康寿命	由希
休みの日 好きなことして 楽しいな	四方 麻央
お昼まで たくさん寝るよ 夏休み	四方 麻央
帰り道 アイスを食べて 頭キン	かしゅーなっつ
夏休み 余暇が多くて よかったね	かしゅーなっつ
クリスマス 寝て起きたら プレゼント	ゆりぴー
暑い日は エアコン効いた 部屋で寝る	ゆりぴー
大好きな 食べ物食べて 満腹だ	おゆ
ねて起きて 食べてまたねて くりかえし	おゆ
夏休み クーラーガンガン アイスうまっ	Y
暑い日に おふろにはいって いい湯だな	Y
友達の 傍にいて感じる 小さな幸せ	しぃ吉
飼い猫は 私に幸せを運ぶ 私の宅急便	しぃ吉

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
大福を 食べてるときが 幸せだ	加藤 瞳
友達と 笑いあうのが 幸せだ	加藤 瞳
ありふれた 日常こそが 幸せなのかも	いんげんまめドレス
好き思う そのひと時が めちゃたのしい	いんげんまめドレス
夏の時期 推しの新たな ビジュ誕生	りっつん
お中元 そうめん沢山 ありがとう	りっつん
夏祭り 友達といく ゆかた着て	おがわ
お中元 ゼリーにようかん おいしいな	おがわ
さくら咲く 別れの時と 出会い時	もちつきかつき
夏休み 昔の友と バーベキュー	もちつきかつき
温かい 犬の散歩で マーキング	ヒラス
自転車で カエルひかずに 帰れたよ	ヒラス
抱き上げて 猫の温もり 汗滲む	にゃんにゃんクラブ
かき氷 舌に証拠の 夏の色	にゃんにゃんクラブ
友達と 笑顔絶えない 日々過ごす	夏野菜
学校で 疲れた後に 会う愛犬	夏野菜
接戦の時 流れをつかみ 勝つ希望	ばナな
家族との 会話がはずむ 最高だ	ばナな
学校に 友達がいる 当たり前	M
部活後に 食べる幸せ 大好物	M
明け方に 眠りに落ちる 金曜日	ぬひんち
帰り道 スイーツ片手に 早歩き	ぬひんち
疲れたら 美味しいご飯で 元気になる	とまとさん
自分の幸福 少しだけあげて 他の幸福に	とまとさん
もぐもぐと ご飯を食べる しあわせだ	西やん
笑顔から つながってゆく しあわせ橋	西やん

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
ソーダ水 舞い上がる泡 一気飲み	緒環
夏休み 青い空見て 羽伸ばす	緒環
卒業し 出逢える奇跡 噛みしめて	三浦 寧音
夏休み みんなで計画 楽しみだ	御宿 心愛
思い出す 4月に入学 懐かしい	御宿 心愛
夏の日の 昼まで睡眠 しあわせだ	松田 悠雅
七夕の ねがいごと かなうかな	松田 悠雅
夏の夜 星に願った 七夕だ	齋藤 誠一郎
クリスマス プレゼント来る 親からだ	齋藤 誠一郎
早朝に 蝉の鳴き声 目がさめた	立花
夏の夜に 空見上げれば 流れ星	立花
昊天に 花が咲いたよ 夏の夜	つな
友達と 日焼け無視して 水遊び	つな
夏祭り 思い出増えた 夏休み	加納 美弥
ピンク色 心おどらす 入学式	加納 美弥
夏の音 八月の朝 虫の声	中村 円香
水の流れ せき止める子ども 川遊び	中村 円香
暗闇に 小さな明り 初花火	トンボ
夏の朝 縁側座り もう一寝	トンボ
夏の夜 花火と鼓動が 打ち上がる	にこ
夏のアイス 火照ったからだに 染みわたる	にこ
手花火に 夏の安らぎ 時とまれ	咲
帰り道 アイス買い食い 至福かな	咲
夏の海 キラキラ輝く 水平線	伊藤 実柚
暑い夏 楽しみいっぱい 夏休み	伊藤 実柚
風ふきて 風鈴の音 いと涼し	葵

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
若葉生え 赤子生まれる しあわせよ	葵
部活後に ひえたアイスに かぶりつく	月見うどん
友達と 流れるプール 楽しいな	月見うどん
夏までに 彼を見つけて やせてやる	ジジ
夏の夜 突然出会う いいオトコ	ジジ
夏空に 負けないような 笑顔咲く	あいちー
かき氷 家族みんなで 幸せだ	あいちー
暑い日に 食べるアイスは 幸せだ	彩
友達と しゃべるときが 大好きだ	彩
幸せは ふとした瞬間 おとずれる	桜
夏うたを ききながら帰る 帰り道	桜
夏の夜 花火の世界 響かせる	柚
ついにきた 夏の好物 かき氷	柚
友達と バカなことして 笑い合う	金木犀
クーラーの 効いた部屋で 本を読む	金木犀
「ありがとう」 その一言で 笑顔咲く	R
生きている ただそれだけで しあわせだ	R
紫陽花に したた水が 梅雨の時	62
お正月 おみくじ引いたら 大吉だ	62
夏の音 いろんな声が 耳に届く	陽奈
青い海 白い砂浜 走る自分	陽奈
しあわせは 知らないとこで あふれてる	心花
しあわせに 高価な価値は つけれない	心花
まじ暑い 今年もまた来た あちー夏	湯
花火はね 友達と見ると 楽しいよ	湯
ひまわりが たくさん咲いて きれいだね	鳥類

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
大量に カラスがいるね かわいいね	鳥類
梅雨すぎて 食べたアイスは 格別だ	Y
始まりは 決まって同じ 起きる場所	Y
夏の時期 あつくるしくて ゆううつだ	にし
暗やみで 動画をみると 幸せだ	にし
人混みで 二人抜け出す 夏祭り	Sさん
僕の鼓動 胸を突き抜け 降り注ぐ	Sさん
涼しいな とても冷たい 海の中	Kさん
虹色の 花火大会 きれいだな	Kさん
夏休み ずっと寝てれる 幸せだ	Mさん
文化祭 あの子と回り 胸が鳴る	Mさん
寒空の 心踊らす 雪の雨	Nさん
アイス食べ 幸せ太り 腹壊す	あ
夏の海 ビキニの女性 目の保養	あ
みんみんみ みんみんみんみ んみんみん	みんみんゼミ
夏休み 遊びまくって あら課題	みんみんゼミ
夏の夜 恋した君と 見た花火	とあちゃん
願う君 同じ想いを 短冊へ	とあちゃん
夏祭り 暑さ忘れる 幸せだ	心
部活後に 冷たいアイス 友達と	心
友達と ラーメンたべる 夏休み	ぶたなか権三郎
夏祭り 人混みに見た 仲良し子	ぶたなか権三郎
セミの声 並んで歩く 帰り道	ほのか
夏祭り 夜空に上がる 花火見る	ほのか
今年こそ 夏の女に なってやる	ジョージ
かき氷 シロップかけ放題 お得感	ジョージ

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
新着の 推しのつぶやき 口元緩む	ラーメン13世
ただ一人 公園で見つめる 花畑	ラーメン13世
夏の夜 家族みんなで 手持ち花火	大野 史華
家の中 アイス片手に ユーチューブ	大野 史華
七月は 誕生日に 夏休み	杜の匠
春休み 家族と旅行 楽しいな	杜の匠
冷蔵庫 頭つっこむ 涼しいな	豊吉 うた
縁側で ペットと昼寝 きもちいな	豊吉 うた
夕暮れと 幼なじみと 線香花火	前田 なるみ
夏祭り 浴衣姿の あなたと	前田 なるみ
衣替え レースの服に まいあがる	菊地 琉香
暑き日に ラムネ片手に 一気飲み	菊地 琉香
蝉の声 友と歩く 帰り道	細川 みづき
家帰えり バテた身体に かき氷	細川 みづき
戸を開けて 汗水冷える 午後の部屋	進 木乃香
コンクール 吹いた楽器と 拭く涙	進 木乃香
夏休み つかまりたいな イケメンに	花音
夏祭り 恋の花火が 見られるよ	花音
暑い日に 食べるアイスが 幸せだ	石川 菖
真夏には 野外フェス行く 楽しいな	石川 菖
かき氷 おいしいところ 食べにいく	しま
夏休み ほしかったくつ 買いました	しま
夏祭り 氷を食べて うれしいな	井上
夏休み 家族みんなで 出かけるよ	井上
夏休み 家族そろって 祭りいく	諸岡 優奈
七夕に 書いた短冊 叶う夏	諸岡 優奈

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
青すだれ うつつ離れて 夢の中	ゆうりょう
汗垂れる チケット握り ペンラ振る	ゆうりょう
暑き日の 幸せ感じる かき氷	こはる
夏まつり 独特な夜 胸躍る	こはる
夜に浮く 火華の惑星 宵花火	三河 由依
雪積もり こたつの中に 猫の顔	三河 由依
パチパチと 夏といえばの 線香花火	横田 花穂
夏のバイト たくさん稼いで 推しに貢ぐ	横田 花穂
暑き日に みんなで遊び 幸せだ	井上 彩也香
幸福だ 花が咲きたる 夏の空	井上 彩也香
幸福の 影に寄り添う 月明かり	雷冥
笑顔咲く 静かな夜に 薫風よ	雷冥
夏の夜 思いあふれる ひとりごと	@ike.com
春逃がす やってしまった パンケーキ	@ike.com
美しい まわり一面 ヒマワリだ	大納言あずき
冷めたいな 真夏のアイス 止まらない	大納言あずき
夏休み あなたのとなり 手持ち花火	畑佐 莉奈
汗流し 応援響く 体育館	安永 朱音
いつまでも 大事にしたい 家族時間	安永 朱音
浴衣姿 夜に咲く花より 美しい	神野 愛翔
寒い日に 部屋で二人で つつく鍋	神野 愛翔
夏の夜に 静かに響く リーン、リーン	下地 ゆずき
どしゃぶりも 美美しくするのは 君と紫陽花	下地 ゆずき
蝉の声 弁当とともに 保冷剤	菊地 愛佳
梅雨明けの 期末テストに 赤点なし	菊地 愛佳
桜咲き 新生活に 胸踊る	岡本 明華

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
華のJK 後悔なしの 青春を	岡本 明華
音が変わる 麦茶の氷 飲むほどに	亀貝 桃花
右腕に 愛しき重み 聞く鼾	亀貝 桃花
新学期 新たな友と 昼休み	成田 絢音
五月雨や 屋根下待機 ねこが来る	成田 絢音
猛暑日に クーラーあびて 見るテレビ	齊藤 妃菜
友達と アイスを食べて 帰る夏	齊藤 妃菜
夏の夜 空一面に 花束が	長谷川 瑠華
風そよぐ 窓辺に花の 香りあり	柴田 美月
温かな 心で迎える 友の顔	柴田 美月
帰り道 たまたま出会った 子猫たち	彩心
夏祭り 二人の瞳に うつる花	そうめん
流れゆく 白き輝き 夏の味	そうめん
君と見る 夜空咲きほこる 夏の花	伊藤 和奏
夏祭り ほとんど行かず ゲームする	笠野 あかり
梅雨明けの せみの鳴き声 来たる夏	井出 華恋
かき氷 はやく食べよと しっぽ振る	ムック
冬の朝 こたつの中で うずくまる	城戸 絢乃
友達と 海で遊んで 日焼けする	城戸 絢乃
梅雨の中 傾く傘と ぬれる肩	北原 夢叶
熱帯夜 涼しい部屋で 次郎系	桂木 悠里
推しのため お金ないのに みつぎます	桂木 悠里
朝おきて アラームみたい せみの声	宅野 友菜
棒を振る 夏ふりかざし 果肉散る	安島 羽那
秋が近付く 最後の花火に 視界ぼやけて	安島 羽那
右曲がり 危ない夜が 命取り	HISAMICHI

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
日焼け跡 にやける俺と 夜の君	HISAMICHI
やっと来た 夏を感じる せみの声	廣野 爽和
アイス買う 部活帰りの 幸の味	廣野 爽和
夏が来た アイス食べたい ひきこもる	勝山 さくら
夏休み 風鈴の音 涼しいな	勝山 さくら
暑いのに 涼しく感じる 夏が来た	舘 結香
桜散り あさがお咲いた 訪れた	舘 結香
海風で 眩しく光る 青い地	おがっさん
最後の夏 思い出づくり 最高の日	おがっさん
夏の夜 おーいと聞こえる 友の声	山浦 菜月
夏休み 2か月くらい のびてくれ	山浦 菜月
夏終わり ヒグラシの鳴く 住宅街	aiai
夏かおる ほたるの夜空 すずしかな	川原 花音
ジリジリと 暑さにじむ 青春部	川原 花音
夏の夜 汗垂れ歩く 帰り道	津野 杏菜
甲子園 試合に負けて 砂集め	竹内 舞野
桜咲く 後輩たちが 増えていく	竹内 舞野
楽器の音 鳴り響く時期 遂に来た	武村 美海
暑すぎる とてもこいしい 秋風が	武村 美海
天の川 願い叶える 夏の夜	吉川 苺花
夏休み きゅうり食べたい 河童かな	森 海夢
夏祭り 気になる人と 夏の夜	抹茶
夏の風 私の心 ゆさぶるよ	加藤 莉音
花火より 君の横顔 輝やかしい	加藤 莉音
夏の夜 君との花火 きれいだな	古市 綾音
夏の夜 一人散歩で いやされる	松藤 涼

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
夏休み 幸せたくさん たのしみだ	松藤 涼
制服で 行ける最後の 夏の海	長縄 夏歩
暑いなか 冷たいトマトに かぶりつく	毛屋四田七好子
沖縄の 音楽聞いて 夏気分	毛屋四田七好子
パリ五輪 テレビの前で 国旗振る	上田 梨乃
夏祭り 離れないよう 引かれる手	上田 梨乃
じめじめと せみの鳴く声 暑さ増す	杉本 結香
浴方着て 花火と胸の 音をきく	杉本 結香
暑い夏 クーラーにふとん これイチバン	カレースプリンター
待ち遠しい 君に会える 新学期	カレースプリンター
君想い 飾り出かける 夏祭り	しおん
朝8時 せみに起こされ 二度寝する	鈴木 野乃
夏の夜 犬と歩くよ 散歩道	鈴木 野乃
ドア開けて クーラーガンガン 涼しいな	嵯峨 如月
放課後に 夏の教室 君の影	ドルン
夏の夜 花火の下で 約束を	ジョニー
甲子園 歓声だけが 響いてる	川瀬 香央奈
夏の夜 空見上げれば 光る花	寺倉 愛祐都
雪景色 こたつの中で 大晦日	寺倉 愛祐都
鳴りひびき はかなく終わる セミの声	窪田 瑞葉
正月 鳥居の前で 大さわぎ	久保田 遥花
暑い夏 みんなで食べる かき氷	矢口 愛悠
夜花火 騒ぐともだち みる私	細川 優香
目が合って 思わずそむけ 胸がなる	細川 優香
桜見る 愛しき君の 横顔よ	山田 妃奈乃
あつい日に 食べる鍋こそ 幸せで	山田 妃奈乃

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
帰り道 コンビニに寄る すずしみに	滝川 稜華
オリオン座 君と見たのは 夏の夜	冨田 和芭
梅雨の私 心を晴らす 夏の君	中西 未希菜
冬の君 あたためるのは 夏の僕	中西 未希菜
夏休み のんびり過ごす 自分の部屋	高橋 舞
初夏の風 たなびく髪と 風鈴歌	佐藤 桃香
春の別れ 久々に会う 旧友に	青木 唯愛
誕生日 ひびく声と 拍手の音	井島 優妃
落ち込んで 空見上げたら 流れ星	橘田 杏南
色づいて 見わたすかぎり 桃の色	法性寺入道前関白太政大臣
輝る花 重り合った 音と鼓動	法性寺入道前関白太政大臣
冷えた部屋 毛布にくるまり 幸感じる	板羽 柑奈
八月 予定がたくさん 忙しい日々	板羽 柑奈
秋を待つ 一人じゃないから 短かいな	藤井 恵茉
夏の空 流れる光に 指を指す	藤井 恵茉
夏の夜 きらめく星と すずしい風	細川 萌花
ドアを開け つめたい冷気 せみの声	野村 美緒
縁側で スイカむしゃぶる 夏休み	西澤 永茉
暑い夏 君と過ごせる 二日間	鯉江 里穂
クリスマス 街が光で つつまれる	竹内 栞那
花火の夜 人々の目に 光が宿る	竹内 栞那
バラが舞う 出会いの季節 告げる恋	渡邊 汐織
部活後の アイスを食べる 友達と	川井 志織
採れたての とうもろこしを ひとかじり	川井 志織
冬の夜 ぬくぬくこたつで 幸せだ	三輪 凌子
耳すます 遠くから聞く 海の声	鬼頭 加恋

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
夏の空 星いっぱい 夢いっぱい	鬼頭 加恋
夏野菜 取れて満足 幸せだ	小澤 明日香
夏の空 雲一つなく 幸福だ	小澤 明日香
夏休み たくさん寝れて 幸せだ	石田 真輝
夏休み 冷たいプール 最高だ	石田 真輝
祭りの夜 ようやく気持ちが 一致した	稲田 桜月
夏祭り 花火を見つめる 君と私	稲田 桜月
君と見る 晴夜に光る 夏の星	仲谷 彩羽
見上げると 花火が上がり 恋が咲く	棚瀬 凛花
潮の音 かき消し聞こえる 君の声	棚瀬 凛花
朝起きて 寝坊と思った 夏休み	安部 愛美海
夏祭り ロックオイルで 巻き取れん	安部 愛美海
水無月に きらめく紫路花 梅雨籠もり	麗
汗拭い 夏を覚える 青い空	麗
年の瀬に 親子団らん 睦まじく	永島 哲紀
正月に 一家揃って 初詣	永島 哲紀
孫鯉を 二匹追加の 鯉のぼり	櫻井 勇良
縁側で 孫が酌する 晩夏かな	櫻井 勇良
伴侶得て 幾星霜や 秋麗	小野 薫
妻と愛づ 千種の社の 花野かな	小野 薫
盆踊り 内外人の 輪で和む	滝 良恵
盆フェスタ 国内外に 広がる和	滝 良恵
振り返る 玄関先の 朝顔へ	中嶋 友里
デイゴ咲く 吾子住む島 夫とゆく	中嶋 友里
大夕立 ドアラのハグに 夢によう	松波 壽子
蝉しぐれ 地産の技を 子につなじ	松波 壽子

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
ハイビスカス 花嫁小さき 十字きる	慶千
天高し 尻より子象 立ち上がる	慶千
鈴菜橋 はちすの群れに ハスひとつ	秋月娘
アサガオや 台風一過に けなげなり	秋月娘
八重栄 不立文字と 西桜	岩田 朋子
栄八重 以心伝心 西桜	岩田 朋子
目を開けて いいよ父さん 花野かな	稲熊 明美
義父植えて くれし甘柿 子と孫と	稲熊 明美
顔洗う 水の冷たさ 暑い夏	大川 章江
軍手つけ カステラアイス 冷凍庫	松本 知士
爆竹や 盆の長崎 二十連	松本 知士
子や孫を 授かりつなぐ 春のみち	山口 のり子
峠こえ わが家に燈る 冬の窓	山口 佳子
角まがり わが家に灯り 冬の窓	山口 佳子
目覚めれば 光射し入る 春の窓	恵峰
水飲めば 水の味する 夏の朝	恵峰
八月や ゆらり祈祷す オウムガイ	野村齋藤
朝桜 ふわりと窓を 開けるとき	野村齋藤
車いすにも母にも優し秋夕焼け	位田仁美
冷コーの注文をして純喫茶	位田仁美
にわか雨 立ち上る湯気 競走馬	倉崎 康秀
テーブルに 一輪咲いた 赤い薔薇	羽馬愚朗
お待たせと 国より届く 今年米	羽馬愚朗
帰省中 母の子として 夕涼み	ベンジャミン
山頂や 風がぬぐって くれる汗	ベンジャミン
合歓咲いて友訪ね来る日曜日	川村栄

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
柴犬の寝言に笑い合う立夏	川村栄
初ボッチャ 汗と技出す 皆若し	松林 亮子
今朝も行く 徒歩10分の 百合愛でに	松林 亮子
夏風に 揺れるブランコ 嫁ぎし娘	森下ゆうじ
夏の夜 蝉の声消え 娘を思う	森下ゆうじ
バンザイで 寝る君守る 夏の月	仲川 暁実
ソーダ水 空へ宙へと 駆ける夜	仲川 暁実
父の日の 長さの違ふ 箸太し	亘航希
おでん鍋 恋色の具を つつき合ふ	亘航希
秋うらら 母となる日を 待つソファ	山田 由美子
葉を拾い まっすぐのばした 紅葉の手	田代 奈保美
安心な 街に生まれて 燕の子	キタロー
悲鳴から 笑い声へと 福笑	キタロー
杜青葉ことほぐ衆に笑む新婦	坂本 雅則
たんぽぽや 黄福色の かわいい子	白川 譽
焼き芋の 大きい方を ほら君に	白川 譽
夕焼けと郷愁誘う青田風	坂井 乃庵
旧友と ラムネ交わした 夕間暮れ	坂井 乃庵
いあわせの 膨らんでゆく 干し布団	木村 隆夫
いあわせは いつも七色 しゃぼん玉	木村 隆夫
初泳ぎ 母のやさしく 吾子招く	柘植 雅一
朝顔と 君の寝顔の 日曜日	柘植 雅一
七夕夜　天高く舞う　花火星	聖
子と孫と 歩く幸せ 桜道	聖
麦帽子暑さに恋する夏がきた	春風
長患ひ癒へて至福な春の宵	岩田 勇

俳句部門

「俳句部門」応募作品	氏名・雅号
平凡といふ幸せの墓参り	岩田　勇
東山　吾子の重みと　三尺寝	小栗　加奈
青がえる　弾けて揺れる　子の笑顔	小栗　加奈